



●編集・発行

財団法人 広島県勤労者福祉推進協会

本部/〒732-0825 広島市南区金屋町1番17号ワークピア広島内

☎ 0120-276-701

TEL: 082-261-4208 FAX: 082-263-7586

http://www.kinnrou.jp



## 落雷に注意!



雷は年中発生し、「落雷」や「側撃雷」の災害を起こしますが、落雷場所を具体的に予測することは出来ません。雷の被害から身を守る行動が必要です。

### 屋内に居ても雷の被害に遭遇します!

落雷に遭ったとき、屋外での避雷は100%安全ではありません。雷が近づいてきたら、落雷対策として出来るだけ早く、建物の中に避難することが常識ですが、実は屋内に居ても雷の被害を受けることはあるのです。

#### ■屋内での雷の被害

落雷によって、屋内にいても、人体や電化製品等が被害を受けることがあります。

感電	<p>落雷時には、大量の電流がコンセントに瞬時に流れ込むことがあります。ごくまれに、建物に侵入した雷の異常電流で、近くにいる人が感電することがあります。部屋の中では電気器具や天井、壁から1m以上離れるようにしましょう。感電によって死に至る場合もありますので、軽く考えないように。</p>	
故障	<p>テレビやパソコンなどの電気器具も落雷による過電流で故障することがあります。スイッチを切るだけでなくコンセントも抜くのがベスト。雷ガード付きのテーブルタップも販売されているので、これらを利用して電気器具を雷による過電流から守るのも1つの対策ですが、誘導雷には多少効果があっても、電線を直撃したのものには効果はありません。大切なデータが無くなるとは大変です、電源を断つのが一番でしょう。</p>	
電話線等	<p>電話線から雷が侵入してくる場合もあります。直接つながった電話の使用は、激しい雷雨のときは控えるようにしましょう。電話線用の雷ガードもありますので、それを利用するのも1つの対策ですが、あまり効果は期待できそうにありません。最近では、テレビ付きのインターホンの雷被害も増えています。</p>	

#### 五感で判断

#### 雷の接近

は次のような方法で確認できます。



入道雲の発生、AMや短波ラジオにノイズ発生。

〈50キロはなれた地点〉

雷光(イナズマ)が確認できる。

〈30キロはなれた地点〉

雷鳴(ゴロゴロという雷の音)が確認できる。

〈10キロはなれた地点〉

#### 勤労者協会の火災共済

落雷による被害は

「火災共済金」の保障対象です。

落雷により火災が発生したり、家電製品が故障した場合は、その損害に対し、家屋、家財の契約額の範囲内で実損額(再取得価額)を火災共済金としてお支払いします。(詳細については当該支所・分室にて)



知って  
得する!?  
情報

# 豪雨・台風に備えて



日本各地で、観測史上例のない雨量により豪雨災害が発生しています。例年、6月から10月頃までは、集中豪雨や台風が集中して襲ってきます。豪雨や台風で一番被害を受けるのは家屋とその周辺です。自分の家がどんな立地条件にあるか知り、対策を立てましょう。その際、公共団体から配られるハザードマップが役立ちます。日頃から確認し、危険に備えておきましょう。

## がけ崩れに備えて

## 《心がけよう、「がけ」の点検、早めの避難》

### 傾斜30度以上



特に40度から50度のあたりではがけ崩れが多発しています。

### 高さ5m以上



屋根より高いがけは、崩れたとき家を押しつぶす危険があります。

### 凸凹やおおいかぶさっているがけ



地形的には、S状型のがけが最も危険といわれています。

### 尾根すじと谷すじの間あたりのがけ



尾根に降った雨は等高線に直角に流れる傾向があります。

### 表土が厚く軟弱ながけ



表土が厚いと、がけ崩れの際、一度に大量の土砂が流出します。

### すそを切り込んだようながけ



がけすそに擁壁や石垣を築いていないがけは要注意です。

### ひび割れや風化しているがけ



このような現象があると、早めの対策が必要です。

### 山腹に湧水や溜り水のあるがけ



湧水や溜り水は、地下水脈をつくり、地盤を軟弱にします。

### 腹出しや浮石のあるがけ



このようながけは、少量の雨でも崩れることがあります。

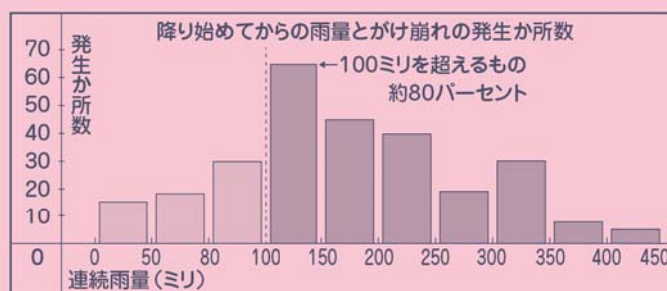
◆どんな時にがけ崩れは起きるのか…がけ崩れは雨が引き金となって起こることがほとんどです。

### ○雨が100ミリを超えると

雨が降り始めてから100ミリを超えると、途端にがけ崩れが起こりやすくなります。がけ崩れの80%は、雨量が100ミリを超えたときに起きています。

### ○1時間に20ミリを超えると

時間雨量が、20ミリ以上の強い雨になると危険です。雨のために地割れが出来たり、地表が流されるなど、がけ崩れの危険が増します。



◆がけ崩れのきざしがあったら、まず避難しましょう。

### ○がけ崩れのきざし



- 斜面にひび割れができる。
- 斜面から急に水が噴き出す。
- 湧き水がにごる。
- 立木の根が切れる音がする。
- 地ひびきがする。

### ○避難時の心得

<p>消防職員や警察官の指示に従って</p>	<p>みんなと一緒に安全な道を選ぶ</p>	<p>ヘイやがけからはできるだけ離れて</p>
<p>荷物は最小限に、服装は軽快に</p>	<p>ミソなど足元に注意を</p>	<p>老人・子供は早目に</p>

(消防局予防課資料より抜粋)